

那賀高志津さんの楽曲

キワニス「きらり賞」に輝く

未来を担う子どもたちのために活動する奉仕団体、和歌山キワニスクラブ（和歌山市湊通丁北、坂本暁史会長）が主催し、高校生の優れたオリジナルの楽曲をたたえる「青少年のメッセージ『きらり賞（最優秀賞）』」に、県立那賀高校3年の志津翔貴さん（18）が作詞作曲した「ホコロビノタネ」が選ばれた（学年は表彰式時点）。



ギターを弾きながら作品を披露する志津さん

式では受賞作品の披露も行われ、星林高校吹奏楽部の33人が受賞作品を合唱。志津さんもギターを弾きながら美しい歌声で作品を披露すると、会場からは温かい拍手が送られた。志津さんが音楽を始めたのは中学3年の頃。祖母の家にあったギターを譲り受けたことがきっかけ



星林高校吹奏楽部の合唱

で、ピアノやベース、ドラムなどさまざまな楽器を演奏したり、作曲したりするようになったという。昨年同コンクールの「将来はカフェバリスタとして自分の店

ルに応募し、奨励賞に選ばれた。ことしはきらり賞を目指し、「テーマの笑顔は明るい認識があるけど、それだけじゃない苦笑いとかの部分を書きたい」との思いで作品を完成させ、見事きらり賞に輝いた。

今夏からはオーストラリアでカフェの仕事を学ぶといい、「将来はカフェバリスタとして自分の店

を持ち、そこで音楽を奏でられれば」と目を輝かせていた。

芸術への関心と創り賞の他、優秀賞に作意欲を高めてもらおうと同クラブは毎年、県内の高校生を対象にオリジナル楽曲を募集。27回目の今回は「笑顔がいっぱい」をテーマに、3校3作品が寄せられた。審査の結果、きらり賞の表彰式が3月28日、同市のホテルアザラシで行われ、表彰状と副賞を手渡し

われ、坂本会長は「過去の受賞者の中にはプロのミュージシャンになっている人もいますので、皆さんのなかからそんな人が出てくれたらうれしい」とあいさつ。受賞者に表

